

職員創作の紙芝居『雨水のぼうけん』 デジタル版を公開！

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林環境教育の教材等として教育関係者や一般の方々にも広く利用いただけるよう、紙芝居『雨水のぼうけん』デジタル版を、7月28日に当局ホームページ上で公開しました。

この紙芝居は、当センターの職員が制作したもので全編オリジナルの作品です。

本編は、主に小学生を対象に、森林が雨水を貯え、きれいな水を育む仕組みを学んでいただけるよう、小さなお子さんにも親しみやすい絵と分かりやすい言葉使いを心懸けた15枚のスライドで構成しています。

この物語は、主人公の小学生ユウちゃんが、祖母の家で飲んだ水道水のおいしさに感動し、そのおいしさの秘密を知りたいところから始まります。ユウちゃんは、空想の世界で雨粒の妖精になって森に降りそそぎ、木の葉っぱからスポンジのような森の土に降りて様々な探検や体験をします。その過程で秘密の答えを見つけていくという物語です。



森と水などの関係については、小学4年生の理科・社会、5年生の社会や6年生の理科で学習することになっており、その補助教材としての活用に期待しています。また、3年生以下の児童や未就学のお子さんへの御家庭等での「読み聞かせ」などにも利用いただけることを期待しています。



第1回 箕面森林ふれあい推進センター運営推進懇談会を開催

当センターの効率的・効果的な運営推進を図るため、学識経験者、森林ボランティア活動関係者及びマスコミ関係者による専門家委員4名と内部委員3名で構成された運営推進懇談会を、毎年度2回程度開催しているところです。

今年度第1回目を、7月22日(水)新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ウェブ方式で開催しました。

懇談会では、令和元年度の事業実施状況及び評価、令和2年度の活動予定について、各担当者から説明を行い、各委員との質疑応答を行いました。

専門家委員からは、「森林環境教育プログラムである森の探検隊の探検ポイントを中学生・高校生向けに拡充を検討するとの説明があったが、具体的な内容はあるのか」、「前回要望している学習ルートのモデルコース設定については、検討はどこまで進んでいるのか」、「里山再生事業箇所において、植生等調査を行っているとの説明があったが、これまでの調査結果を年度別にとりまとめられていると思うので見せて頂きたい」、「令和元年度ニホンジカの生息状況外モニタリング調査によるシカの利用ポテンシャルマップは良いデータなので、今後検討予定の箕面国有林における個体数管理指針に盛り込んでどうか」、「森林環境教育手引書(小学校編)について、学習指導要領が改訂されていることから、手引書の改訂に取り組む必要がある」、「情報発信の方法について、SNSやフェイスブックなどを追加してはどうか」、「創作紙芝居「雨水のぼうけん」は良い教材であることから、さらにテーマごとに作品を作ってはどうか」と言った多くの意見や助言を頂きました。

専門家委員から頂いた意見や助言を踏まえ、実施可能なものから取り組むこととしています。



昆虫ベッドの土入れ替えを完了!!

7月27日、30日の両日、箕面国有林エキスポ'90みのお記念の森にある昆虫ベッドの土を交換しました。

この昆虫ベッドは昨年の6月に設置し、ここにカブトムシが産卵したことで、昨年の秋には幼虫が60~80匹いました。今回の土入れ替えの時には、カブトムシの成虫31匹(オス4匹、メス27匹)、サナギ4匹(オス1匹、メス3匹)が土の中にいましたので、50匹以上の成虫になったカブトムシが飛び立ったものと思われます。

土を交換したことで今年もカブトムシが産卵し、多くのカブトムシが飛び立っていくことを期待しています。



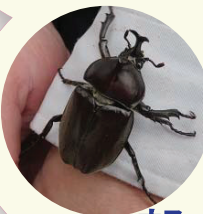
古い土の取出し

土の中では...

たくさん育っていた
カブトムシ



メス



オス



古い土を取出した後の昆虫ベッド

新しい土



昆虫ベッドには
新しい土を投入

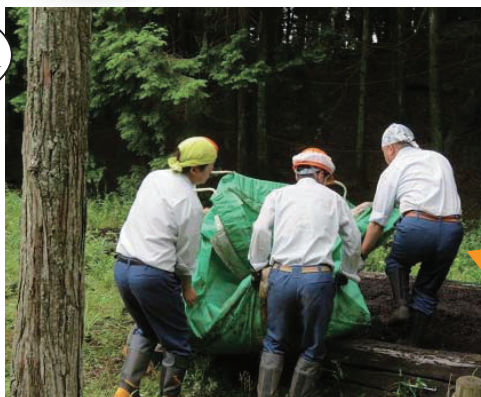


成虫になり元気に飛び立つカブトムシ

今年もたくさん
産卵しますように☆



新しい昆虫ベッド完成!



土運びのため何度も往復

第1回「箕面体験学習の森」育成・活用事業（Ⅱ）検討委員会を開催

当センターが環境教育等に活用している箕面国有林(大阪府箕面市)内にある「箕面体験学習の森」の具体的な育成及び活用等について検討するため、学識経験者、森林ボランティア活動関係者及教育関係者による専門家委員8名で構成された検討委員会を、毎年度2回程度開催しているところです。

今年度第1回目を、8月26日残暑厳しい中、午前10時から12時までの2時間、箕面国有林にある「体験学習の森」で開催しました。当日は、専門家委員5名、大阪府行政関係者2名、局関係者8名の総勢15名が参加しました。

今回の検討委員会は、新型コロナウイルス感染症対策を講じて行う初めての現地開催で、チェックシートによる出席者の体調確認、手指消毒液の設置、三密を避けつつ、熱中症対策も行つての開催となりました。当センターからは、「台場クヌギ仕立て試験の生育状況」、「エドヒガンの間伐及び間伐木の利用」、「森の動物探検コース(案)の設定」、「中高生向けの学習エリア拡大」、「アカマツ外の除伐箇所」の5つの課題について、各担当者から説明を行い、各委員から助言指導を頂きました。専門家委員からは、「クヌギの一部生育が悪いのはアブラムシの影響であることから殺虫を行うこと」、「十分な太陽光を受けていないため、被陰の影響となっているアラカシの伐採または枝下ろしを行う必要がある」、「エドヒガンの良好な生育を促すためにも早期に間伐が必要である」、「草木染めに利用するとのことであるが、指導者を紹介する」、「森の動物探検コースのポイントに見本を付けると良い」、「ポイントの説明版は耐光性のあるものに変更して常設常置にして広く来場者にPRした方が良い」、「中高生向けのポイント拡大検討箇所については、60年生のヒノキ主体の人工林とあるが、間伐の必要性が分かるポイントにしてほしい」、「アカマツの除伐箇所については9月と10月に実施する考えである」と言った多くの助言や発言を頂きました。また、センサーカメラに写った動物の説明、百人一首に詠まれている植物の生育箇所位置図の説明、職員が創作した紙芝居「雨水のぼうけん」のPRについても行いました。撮影された動物については、「市民へのPR方法を検討すべき」、「森の探検隊百人一首コース案には期待している」などの助言も頂きました。

専門家委員から頂いた意見や助言を踏まえ、地域住民やボランティア団体の協力を得ながら取り組むこととしています。



キンモクセイの香る秋空の中 「カブトムシ里親まつり」を開催!!

台風14号による天候の影響もなく、10月11日(日)、親子4家族15名の参加者を迎え箕面エキスポの森で「カブトムシ里親まつり」を開催しました。

このイベントは、箕面森林ふれあい推進センターが7月に公募した「森林ふれあい推進事業」に応募されたNPO法人クワガタ探検隊と共催で開催したものです。



森林散策



夢中に幼虫を探す子どもたち



森林散策



熱心に紙芝居を聞く子どもたち

当日は、すがすがしい秋空の中、高山所長から歓迎の挨拶を行った後、創作紙芝居「エキスポ森のサンバ」を西美和氏が熱演し、参加者は熱心に聞き入っていました。上演の後、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」として整備している森を、西義史氏の解説を聞きながら森林散策を行い、森の中に設置してある昆虫ベッドにたどり着きました。子供たちが楽しみにしていた、本日のメインイベント、カブトムシの幼虫探しです。指導者の西氏からは、「この昆虫ベッドにはコクワガタ、ミヤマクワガタ、カブトムシ、コカブトムシの幼虫がいます。」との説明があると子供たちは夢中になって、幼虫を探し始めました。西氏から「カブトムシの雄と雌の見分け方が解る人。」の質問に、すかさず「雄はおなか側の下部にV字があります。」と答える昆虫博士さながらの子供もいて、将来が楽しみです。幼虫が見つかるたびに歓声が上がりました。親御さんも子供と一緒に探す様子を見て微笑ましく感じました。

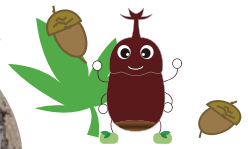
今年は天候が不順だったことから、カブトムシの幼虫はあまり見つかりませんでした。西氏が自宅で養育している幼虫も含めて、参加者家族は、ペアのカブトムシ幼虫を自宅で養育することとなりました。中には、見つけたミヤマクワガタの幼虫も自宅で養育するため持ち帰る家族もおられました。

参加者全員で、三密を避けて各家庭で持参した昼食を楽しみ、自己紹介を交えながら秋を満喫しました。

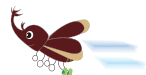
今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していた行事がすべて中止となっていました。ようやく感染症対策を行ってのイベントにおいて、参加者の満足した笑顔が拝見でき、スタッフも安堵して帰路につきました。参加者が自宅に持ち帰ったカブトムシが無事に成長して、来年の初夏には成虫になることを願っています。



カブトムシの幼虫



見つけた幼虫をビンにつめて持ち帰り。カブトムシが成虫になりますように★



参加者の皆様とスタッフ

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
 TEL: 050-3160-6745/FAX: 06-6881-2055
 〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局 3F
 URL: http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
 E-mail: kc_fureai@maff.go.jp



箕面国有林におけるニホンジカの被害対策と里山再生の取組をPR —「生物多様性研究フォーラム2020」開催—

令和2年10月18日(日)、箕面市の箕面文化・交流センターにおいて、「みのお山とみどりのフェスティバル生物多様性研究フォーラム」(主催:箕面市・NPO法人みのお山麓保全委員会、後援:明治の森箕面自然休養林管理運営協議会)が開催されました。

今年新型コロナウイルス感染症対策上、参加人数を制限しての開催となりましたが、会場のキャパシティの約半数に当たる66名(一般参加者50名、関係者16名)の参加となりました。フォーラムは、第1部では「生態系に大きな影響を与えているシカの生息状況と被害防止対策について」、第2部では「エキスポ'90みのお記念の森の森林整備と生物多様性について」、をテーマに各発表者から報告があり、その後、発表者や参加者を交えて「全体ディスカッション」が行われました。



体温計測とチェックシートを記入

生態系に大きな影響を与えているシカの生息状況と被害防止対策について

第1部では、初めに、大阪府立環境農林水産総合研究所生物多様性センターの幸田氏から箕面市のニホンジカの生息状況について、「国有林周辺ではシカ生息密度が大幅に減少している一方で、その他の地域では高密度となった場所がみられる。」等の報告がありました。続いて、(株)野生動物保護管理事務所の横山氏からは、箕面国有林におけるGPS首輪によるシカの行動特性調査について、「シカが好む場所や植生は季節ごとに異なる。」等の報告がありました。箕面森林ふれあい推進センターの瀬崎自然再生指導官からは、箕面国有林におけるシカ被害防止対策として、「シカ捕獲事業の実績」や「近畿中国森林管理局職員が開発した『小林式誘因捕獲法』や四国森林管理局が開発した小型囲いワナ『こじゃんと1号』の試行など効率的な捕獲の取組」等について報告しました。箕面市みどりまちづくり部環境動物室の岩永氏からは、箕面市におけるシカ捕獲実績として、「農業被害や市街地出没防止に重点を置いた捕獲」等について報告がありました。



当センターからシカ被害の防止対策を報告



エキスポ'90 みのお記念の森の森林整備と生物多様性について



第2部では、箕面森林ふれあい推進センターの高山所長から、「オオクワガタの棲める森づくり」の取組として、「里山再生に向けた森林整備を地域の関係団体と連携して実施していること」や「小学生や教員を対象にした森林環境教育を実践していること」等について報告しました。(株)里と水辺研究所の田村氏からは、植生調査や昆虫調査を踏まえ、「エキスポ'90 みのお記念の森における防鹿ネットは動植物の種多様性の保全・育成に効果的である。」等の報告がありました。



当センターから里山再生の取組を報告

全体ディスカッション



全体ディスカッションでは、参加者から、「シカの個体数の適正化を目指すことと合わせて、シカの被害を少なくしていくためにどのような対策をすべきか。」や「国、都道府県、市町村が連携した広域的なシカの捕獲体制は重要である一方で、連携には課題が多く難しい現状がある。」等多くの質問や意見が出されるなど活発な議論が行われました。このことから、市民から向けられている地域の森林への関心が非常に高いことを実感でき、2時間30分のフォーラムでしたが、充実した意義深いものとなりました。



フォーラム会場風景

当センターとしても、国有林の人材や技術、フィールドを最大限活用し、地域の関係団体と連携した森づくりを行うとともに、今回のようなフォーラム等の場で当センターの取組を積極的に発信することにより、地域における生物多様性の保全の取組を支援していきたいと考えています。



全体ディスカッション



近畿大学生の国有林視察を受け入れました！！

箕面森林ふれあい推進センター（以下「センター」という。）並びに京都大阪森林管理事務所（以下「京都大阪所」という。）では、近畿大学との協定*に基づき、令和2年11月26日（木）、近畿大学生27名、院生1名、担当教授3名の視察を受け入れました。京都大阪所からは中村所長外2名、センターからは高山所長外1名が対応しました。

まず始めに、中村京都大阪所長から歓迎の挨拶を行った後、高山センター所長から、センターが取り組んでいる「オオクワガタの棲（す）める森づくり」の場所を案内しながら、ポイント毎に説明を行いました。

それぞれのポイントでは、当センターが取り組んでいる「オオクワガタの棲（す）める森づくり」、「森林環境教育プログラム『森の探検隊』の作成と実施」、「シカの被害対策」、「森林環境教育教員研修」、「森林環境教育用教材の作成」などについて、解りやすい内容となるように努めました。矢放係員からは、自らが創作した紙芝居「雨水のぼうけん」について説明を行いました。

説明では、森林内に入って下草を刈ったり木本を伐ったりすること、森の探検隊プログラムの実施に向けての事前準備や連絡調整など具体的な仕事の内容や達成感、森の探検隊プログラムの実体験などを交えて説明を行いました。最後に、私たちがこの仕事を選んだ理由と感想についても話しました。



京都大阪所長から挨拶



レクリエーションの森としての森林整備を問う



『森の探検隊』及び『シカの被害対策』の説明



紙芝居『雨水のぼうけん』についての説明



『昆虫ベッド』の説明

学生からは、「植栽されたクヌギが順調に成長して利用できる太さになった場合、台場クヌギに仕立てるとの説明でしたが、伐った木はどのように利用されるのですか。」、「林野庁に入るための公務員試験の区分はどのようになるのですか。」、「シカの捕獲事業を実施されているとの説明でしたが、地元住民などからの反対意見はなかったのですか。」、「昆虫ベッドに放虫されたカブトムシはどこ産ですか。」などの質問がありました。



真剣なまなざしで説明を聞く学生達

これに対して、「台場クヌギに仕立てるために伐った木は、この場所ではシイタケ原木に使用して、森の探検隊ポイントとして利用したいと考えています。なお、この北摂地域での利用方法としては、炭焼きの原材料として利用し菊炭を製炭するのですが、国立公園内であるため、火気の使用が禁止となっていることから炭焼き体験の実施予定はありません。」、「国家公務員総合職や林野庁採用試験の区分は大卒程度(林学)(土木)(建築)(行政)となっています。」、「箕面市やボランティア団体が多数参加している協議会と連携した取組を行っていることから大きな反対意見は聞こえてきていません。」、「昆虫ベッドのカブトムシは、当初は箕面市止々呂美産でしたが、現在は、昆虫ベッドが良い環境であることから箕面国有林周辺から幼虫が集まっています。」とセンターなどから回答しました。約1時間の視察でしたが、大学生達は真剣な眼差しで聞き入ってくれていました。



高木性広葉樹の保残についての説明

次に場所を移動して、京都大阪所から平成28年度に皆伐し、公益的な機能を重視した多様な森林整備を実施している場所で、高木性広葉樹の保残、森林の複層状態への誘導、コンテナ苗の活用、シカ防護柵の設置状況などについて、平井森林技術指導及び平尾森林官から説明を行いました。ここも約1時間の視察でしたが、大学生達は真剣な眼差しで聞き入ってくれていました。

担当の教授からは、「現在の森林・林業の概要、技術等は講義などで教えてはいるのですが、やはり現場を見てそれを体験することで学生の身についていくことを実感しています。」「環境に興味のある学生にとって、環境保全活動自体が仕事になると受け取り、今の国有林はとても魅力的に映るようです。公務員志望の学生もいることから、とても参考になったかと思えます。」との感想を頂きました。

当センターでは、協定に基づく取組の一環として、今後も視察案内などに積極的に取り組んでいきます。

※林野庁近畿中国森林管理局と近畿大学は、調査研究や人材育成等に関する連携協力協定を締結しています。詳しくは、近畿中国森林管理局ホームページ掲載の令和元年10月21日近畿中国森林管理局プレスリリースをご覧ください。

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター
 TEL:050-3160-6745/FAX:06-6881-2055
 〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局 2F
 URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
 E-mail kc_fureai@maff.go.jp

